

「何事もスピード感が大事！」経団連新会長・中西宏明の決意

65
創刊65周年

財界

Z A I K A I
a Japanese business biweekly

造船世界1、2位の
中国、韓国にどう対抗？
ジャパン マリンユナイテッド
千葉光太郎の
「造船生き抜き論」

2018 6/26

◎インタビュー
SBIホールディングス社長
北尾 吉孝
京都大学大学院教授
岩下 直行

グローバル化、人手不足、AI導入…混沌とした状況下、経済人の使命とは？
商工会議所
創立140年
日本商工会議所会頭・三村明夫が訴える
渋沢栄一のお思想に今一度立ち返って

本誌主幹
村田 博文



表紙の人
レノバ会長
千本 倅生
撮影 青田 勲

平成30年6月26日発行（隔週火曜日）平成30年6月12日発売
昭和28年10月3日第三種郵便物認可 第66巻第13号

人生の転機

Turning point



FBマネジメント社長

山田 一歩

Yamada Kazuho



当社の社名にあるFBは「ファミリービジネス」の略ですが、老舗企業のマーケティング・PR支援、事業承継・M&A（企業の合併・買収）支援などを行っています。ファミリービジネスの経営課題をワンストップで解決するソリューションカンパニーであり、「1000年企業を100社創る」という目標を掲げています。

元々、私の母方の祖父・祖母は事業を営んでいました。ただ、その苦勞を見ていた母は銀行員である父と結婚し、私に堅実な人生を歩んで欲しいと願っていました。その希望もあって、私は大学卒業後、大手証券会社に

入社することになります。最終的には、M&Aアドバイザーになるという目標を持っていました。

そんな私の大きな転機は29歳の時にやってきました。当時、私は大手コンサルティング会社に転職し、日本を代表する上場企業の資本政策立案、株主対策、M&A業務に携わっていました。が、祖父母の経営していた会社が倒産したのです。

それまでの私は、父母が望んだようにサラリーマンとしての人生を歩んできたこともあり、祖父母の事業を深く意識していませんでした。倒産をしたことで数多くの社員の方々、地域社会など、多くのものに影響を与えるのだということ、そして祖父母が大きなものを背負って生きてきたのだということを実感したのです。そこで初めて起業を強く意識しました。そして、「ファミリービジネスをサポートする会社をやりたい」と考えたのが、まさにこの時です。そこで振り返ってみると、証

券会社時代、波長が合うなど感じるのはオーナー企業の経営者の方々でした。それは私が子供の頃から祖父母や、その周りのオーナー社長に囲まれて育ったからではないかと思えます。もう一つ、経営者となってからの「仲間」との出会いも転機と言えます。

起業してから、なかなか事業がうまくいかなかった時期、私より1歳年長の経営者と出会い、その人を媒介として今、7人

の経営者で「チーム」のような関係を築いています。

この出会い以降、出会う人の質が変わり、事業の展開も加速していききました。仲間が挑戦している姿を見ると、自分自身も「まだまだ頑張ろう」と思うことができそうです。お互いに人を紹介し合ったり、自分の足りない部分を補い合ったりしています。が、これからも自分自身を磨き、いい関係であり続けたいと考えています。

実家の倒産と仲間との出会い



経営者仲間と共に。後列右から2人目が山田さん。お互いに切磋琢磨している